

# 下呂市子供の読書活動推進計画

令和 3 年

下呂市市長公室

## 目 次

第一章 計画策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
はじめに	
1. 計画の概要	
2. 計画の期間	
3. 基本的な考え方	
第二章 読書習慣習得のための役割・・・・・・・・	2
1. 家庭の役割	
2. こども園の役割	
3. 学校の役割	
4. 地域の役割	
5. 図書館の役割	
第三章 各年齢層での課題・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1. 家庭での課題	
2. 園児期での課題	
3. 小学校での課題	
4. 中学校、高校での課題	
第四章 子供の読書に必要な取り組み・・・・・・・・	4
1. 総則	
2. 地域における方策	
3. 家庭における方策	
4. 保育施設、学校における方策・・・・・・・・	5
5. 図書館における方策	
第五章 今後について・・・・・・・・・・・・・・・・	6

## 第一章 計画策定にあたって

### はじめに

国の子供の読書活動の推進に関する基本的な計画には「子供は、読書を通じて、読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができるようになる。」と、読書活動の重要性を謳っています。また、文学作品に加え、自然科学・社会科学関係の書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる知的探究心や真理を求める態度が培われます。近年、情報通信技術（ITC）を利用する時間は増加傾向にあります。あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になる一方で、視覚的な情報と言葉の結び付きが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているのではないかとの指摘もあります。その中で、読書活動は、精査した情報を基に自分の考えを形成し表現するなどの「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むことができることから、重要性が高まっていると考えられるとあります。

「下呂市子供の読書推進計画」は、乳幼児から子供の実態に応じて、読書との関わりを深め、読書に親しむ活動の推進を目指して行くために必要な基本的な環境の提供を計画するものです。

#### 1. 計画の概要

この計画では、子供の読書活動を推進するため、図書館の充実を図り、学校・民間団体等の関係者の連携・協力によって各種取組を充実・促進します。また、読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組、読書への関心を高める取組の充実を促進し、子供の読書活動への支援体制の構築を目標とします。

#### 2. 計画の期間

当面の計画の期間は令和3年から令和7年までの5ヶ年とします。

#### 3. 基本的な考え方

子供の読書活動は、言葉を学び、感性や想像力を磨き、思考力や自らを表現する力を育て、相手のことを知ることでお互いを理解する力を育みます。読書活動の重要性が高まっている中、乳幼児期から子供の実態に応じて、子供が読書に親しむこと、読書を好きになる読書習慣を効果的に図る必要があります。子供が気軽に本を手にとれる、本を身近に感じられる環境、読書を楽しむ、読書から学べる環境をめざし、家庭や図書館、こども園、学校、民間団体などと協働し、読書活動の促進を促すことを目標とします。

## 第二章 読書習慣習得のための役割

### 1. 家庭の役割

子供の読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、読者が生活の中に位置づけられ継続して行われる必要があります。子供にとって最も身近な存在である保護者が積極的に、子供が読書に親しむきっかけを作ったり、読書の習慣づけを図ったり、家族で感じたことや考えたことを話し合ったりするなど、読書に対する興味や関心を引き出すように子供に働きかけることが望まれます。

### 2. 保育施設の役割

乳幼児期には、周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得します。また、絵本や物語を読んでもらうことなどを通じて絵本や物語に興味を示すようになります。そのため、こども園などの保育施設では、幼児が絵本や物語などに親しんでいくきっかけづくりをします。読み聞かせてもらう喜びを子供に体験させたり、読み聞かせの大切さを保護者に啓発したり、未就園児への支援をしたりすることにより、子供が読書の楽しさに出会える環境を整えています。

### 3. 学校の役割

学校は子供の読書習慣を形成していくうえで大きな役割を担っています。一斉読書や朝読書の実施、学級文庫の設置などを行うことによって、児童生徒の読書意欲の向上を図ります。また、学校図書館は、児童生徒の学びを支援するとともに、自由な読書を保障する場として重要な設備であり、①児童生徒の読書活動、読書指導の場である「読書センター」、②児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」、③児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を整えています。

### 4. 地域の役割

地域では、読み聞かせを行っているサークル、展示会等を実施するなど子供の読書推進に貢献しているさまざまな団体が活動しています。こうした団体に継続して活動を行ってもらうことが地域における読書環境の向上につながっています。また、各地域において、幅広い地域住民の参画を得て地域全体で子供たちの学びや成長を支える「地域学校協働活動」が推進されており、放課後等における様々な学習・体験プログラムを提供する「放課後子ども教室」等の取組が実施されている中で、地域における子供の読書活動の充実を図ることも期待されています。

### 5. 図書館の役割

図書館は、豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所です。また、保護者にとっても、子供に読ませたい本を選択し、子供の読

書について、職員に相談することができる場所でもあります。また、子供の読書活動を推進する団体等との連携を図り、活動の機会・場所の提供等など地域における子供の読書活動の推進において中心的な役割を果たすよう努めることが期待されています。

下呂市立図書館は、よりきめ細やかなサービスに取り組み、子供たちが、読みたい本を自由に選択し、読書の楽しさや学ぶ喜びを得ることが出来るよう、環境を整備していきます。また、関係機関や関係団体との連携協力による取り組みを行います。

### 第三章 各年齢層での課題

#### 1. 家庭での課題

乳幼児期における絵本との出会いは、その後の読書活動に大きく影響する大切な時期です。読書活動の重要性はよく理解されているものの、生活スタイルや価値観の多様化により、大人が読書をしない家庭もあります。大人自身の読書活動も子供の読書活動に影響を与えることから、大人の読書活動の推進も不可欠です。

子供たちがより多くの絵本と出会い、親しむためにこれらの機会を充実したものにするため、家庭での読書環境の整備や親子で読書を楽しむ機会は確保が必要です。

#### 2. 幼児期での課題

幼児期においても絵本の読みきかせは重要です。保育士による読み聞かせは園児の想像力や言語能力を発達させます。また、自発的に絵本を読む機会が増加します。保育士は積極的にこういった自発的な行動を促し、また、家庭でも絵本を自発的に読むことができるように環境を整える必要があります。このためにも図書館等を活用し、様々な絵本にふれあえるようにすることが求められています。

#### 3. 小学校での課題

小学校児童期には絵本から文庫本、小説など徐々に活字に親しむ機会が増加してきます。また、読書感想文を作成する機会もはじまり、感じたことを表現することが求められます。また、家庭での読書を通じた親子間の会話が表現する力を育み、社会的な表現力を育てます。この時期の読書は表現力や思考力を育て、自らの考えを相手に伝える力を促進します。このため小学校児童期における読書の重要性を認識し、読書活動の推進を行う必要があります。

#### 4. 中学校、高校での課題

この時期の読書は正しい日本語の習得やより多くの知識の会得など学習や社会生活に重要な位置を占める時期です。しかし、中学校から徐々に読書する子の比率が全国的に下がってきています。勉強や部活が忙しくなる時期でもありますが、メディアやインターネットや SNS に興味を持ち、図書離れが進行していると推測されます。この年代の読書離れをいかに食い止めるかが大きな課題となっています。

## 第四章 子供の読書に必要な取り組み

### 1. 総則

乳幼児から子供の実態に応じて、地域・家庭・学校等が連携し、子供が読書に親しむ活動を推進していきます。絵本や小説、文庫などが、いつでも手に取れるような環境や機会を提供することが、活字離れを防ぐ一つの方法といえます。必要な時に必要な本が手に入ることで読書がより身近なものになります。また、その子が求める本がすぐ手にとれるよう、図書館職員の能力の向上を図ることも必要です。図書館ではパソコンによるレファレンスもありますが、図書館職員自身が図書に精通していることが好ましいといえます。また、読書をする場所を整備することも必要と考えます。本を手にとったその場所で読んだり、家庭で読んだり、教室で読んだりといろいろな場所が想定されますが、読書の時間をより有意義に過ごせるよう、読書する場所の確保が求められます。大人が読書活動に理解と関心を示し、子供と一緒に楽しみながら、読書活動を継続していくことを推進します。

### 2. 地域における方策

地域においては読書サークルによる絵本の読み聞かせや紙芝居などが取り組まれています。各地域で図書をすぐ手に取れる状況が構築されれば読書に親しみやすいまちづくりが進めやすくなります。団体貸出を行っている児童館等と連携を図り、読書活動の啓発活動をする。また、親子を対象としたイベントや保護者の集まる機会などを利用し、子供の読書活動の重要性について情報を提供し、理解の促進を図ります。

#### ・地域における読書推進目標

- ① 各団体の情報交換の場を作りましょう。
- ② 読み聞かせなどの学習会を開催しましょう。
- ③ いろいろなところに本を配置する仕組みを整えましょう。
- ④ 学校、公民館などはお互いに連携しましょう。
- ⑤ 読書活動推進を続けるための仕組みづくりをしましょう。
- ⑥ 男性の読み聞かせ活動を推進しましょう。

### 3. 家庭における方策

家庭は、子供たちの成長に深く係わる生活の場の基本です。子供が日常生活を過ごす中で自然に本に親しむことができる環境をつくることが重要です。家庭の中で子供の成長にあわせた絵本の読み聞かせや読書の習慣を育むための環境作りを推進します。しかしながら、テレビやゲームといったメディアとの関わりが徐々に増えてくるのも家庭からです。また、宿題の時間などもあり、読書の時間は削減傾向になってしまっています。読書の魅力を再度確認していただき、本とのふれあいの時間をより多く家庭でとれるよう推進します。

・家庭における読書推進目標

- ① 読書体験を保護者自ら子供に伝えましょう。
- ② 本（絵本）のある家庭にしましょう。
- ③ 子供の「読んでほしい」という要求には、家族でしっかり応えましょう
- ④ 家庭で一緒に読書する時間を持ち、子供たちの感想を聞いてみましょう。
- ⑤ 図書館で本を探す、書店で本を探す楽しみを一緒に味わいましょう。
- ⑥ ノーメディアの取り組みを実施するなど、生活リズムを整えて読書する時間を確保できるようにしましょう。

4. 保育施設、学校における方策

保育施設（こども園・児童館・学童保育・放課後子ども教室等）では発達段階に応じた絵本の読み聞かせを行い、周囲の大人たちが適切な支援のもと読書活動を積み重ねることで、人と関わったり他者と感情を共有したりすることの喜びや安心感を味あわせることとなり、よりよい成長の支えとなる自己肯定感や他者への基本的信頼感の育成にもつながるため、安心して図書に触れることが出来るよう図書の整備を図れるよう推進します。

学校においては、全ての子供が自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるように支援を行うとともに環境を整えていきます。また、各学校段階において、学習と関連づけた読書、読書の楽しさを味あわせたり、読み聞かせから読書への移行を支援するとともに、子供の読書意欲の向上や読書習慣の基礎づくりの支援。自らの興味関心や目的に応じた幅広く専門的な読書、子供が生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により、様々な図書に触れる機会を確保できるよう推進します。

・保育施設、学校における読書推進目標

- ① 読書をいつも意識できるようにしましょう。
- ② 読み聞かせや朝読書をはじめとする一斉読書の時間を計画的に設定しましょう。
- ③ 学校図書館の資料を計画的に整えましょう。
- ④ 司書教諭等と子供たちの図書委員、地域の読み聞かせ団体が一緒に考え工夫して活動しましょう。
- ⑤ 図書館の見学を実施することで、図書館を身近に感じ、図書館利用の促進を図り、子供が読書に親しむ機会を多く持てるようにしましょう。
- ⑥ 学校図書館資料、施設の整備・充実
- ⑦ 読書活動の成果発表や読書感想文コンクールなどにより感性を伸ばし、自らの考えを伝える能力の育成をしましょう。
- ⑧ ノーメディアの取り組み、生活リズムのチェック等を実施することで児童生徒が読書活動に親しむ機会を増やすように努めましょう。

## 5. 図書館における方策

多くの子供たちに図書館を利用してもらい、本を通じて多くを学ぶ拠点として、さらに図書の充実を図っていかなければなりません。また、多くの子供たちに絵本や図書に興味を持ってもらえるようなイベントや本の紹介を行い、図書館を有効に活用していただけるよう、努めていかなければなりません。そのためには、図書館職員は専門的職員として、図書館資料に関する広範な知識や、子供の発達状態に応じた図書の選択に関する知識、子供の読書指導に関する知識・技術等を身につけ、子供やその保護者に対して図書に関する案内や助言を行うとともに、子供の読書活動に関する相談等に応じるよう努めます。

### ・図書館における読書推進目標

- ① 子供たちが読書活動の楽しさを体感できる場所として、気軽に図書館を利用できる環境づくりに努めましょう。
- ② 読書関連団体との連携や、各団体がお互いに情報交換できるようにしましょう。
- ③ 学校図書館、こども園、児童館などの読書活動との連携を進めましょう。
- ④ 蔵書検索システムの活用やデータの活用の再確認をして、蔵書を増やす・努力をしましょう。
- ⑤ 図書館内整備を行い、読書にふれあえる環境づくりと新たな利用者の開拓をしましょう。
- ⑥ 子供が集まるイベント等への移動図書として出向くことで、推進活動の普及・啓発や本に親しむ機会を設けましょう。
- ⑦ 読書の時間が確保しにくい若者に電子書籍利用サービスの調査の検討

## 第五章 今後について

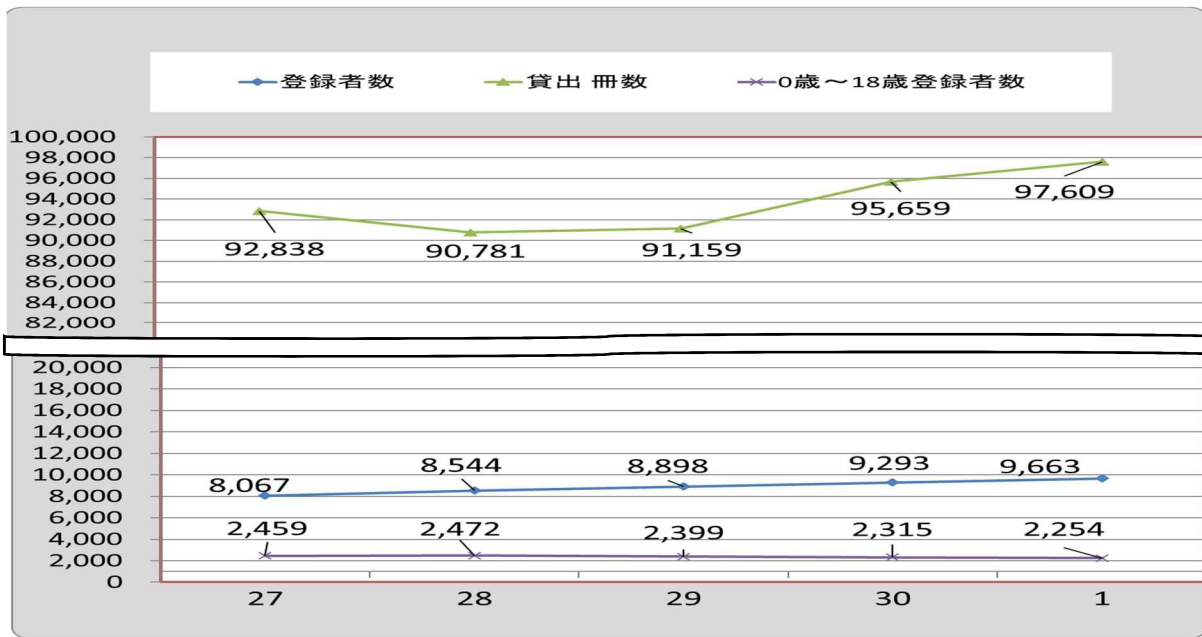
今後の下呂市が子供の読書の推進のために必要なことは、子供が絵本や本と出合うため、また、親しむためにより多くの図書をこども園、小学校、中学校、図書館に取りそろえること、また、相互に図書の流通や情報交換の場を設け、いかにして子供に読書の習慣を身につけさせられるのかを包括的に検討することが大切です。読書離れが進む中ですが、図書の魅力に気づき、読書を続けている子供たちは確実に存在することから、より多くの子供たちが読書を続けられるようその魅力をいかに発信していくかが重要となると考えます。

また、読書スペースを確保することで親子の読み聞かせを促進したり、学習室を充実させ、小中学生の利用を促したりするなど各年代に合った対策を進めていくことを求められています。限られたスペースの中でこれらを達成することは簡単な事ではありませんが、少しでも子供たちの読書習慣を身に付けさせるために行政と民間、学校と家庭が協力し、よりよい環境を確保提供できるように意識の継続が必要です。

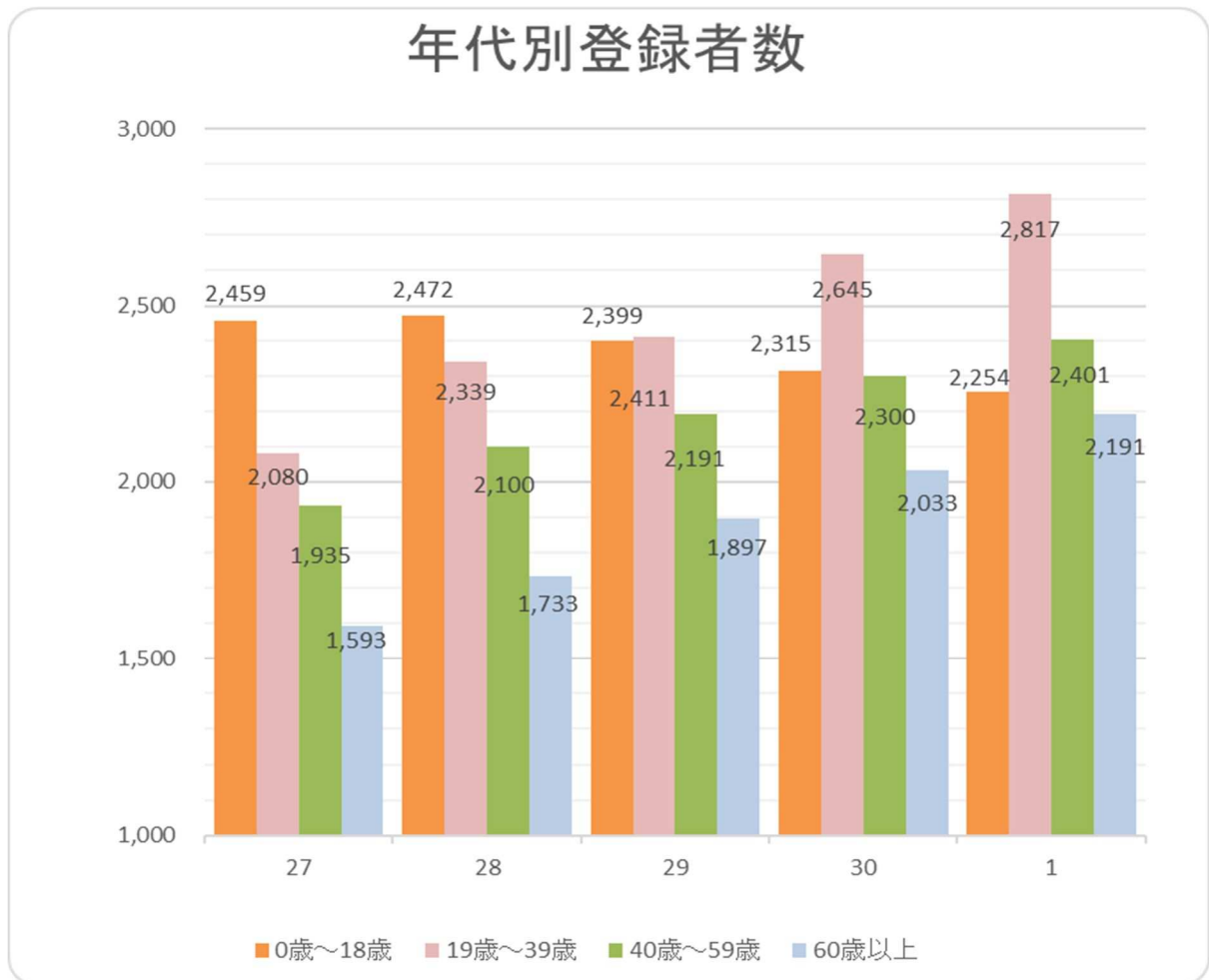


## 下呂市図書館の現状

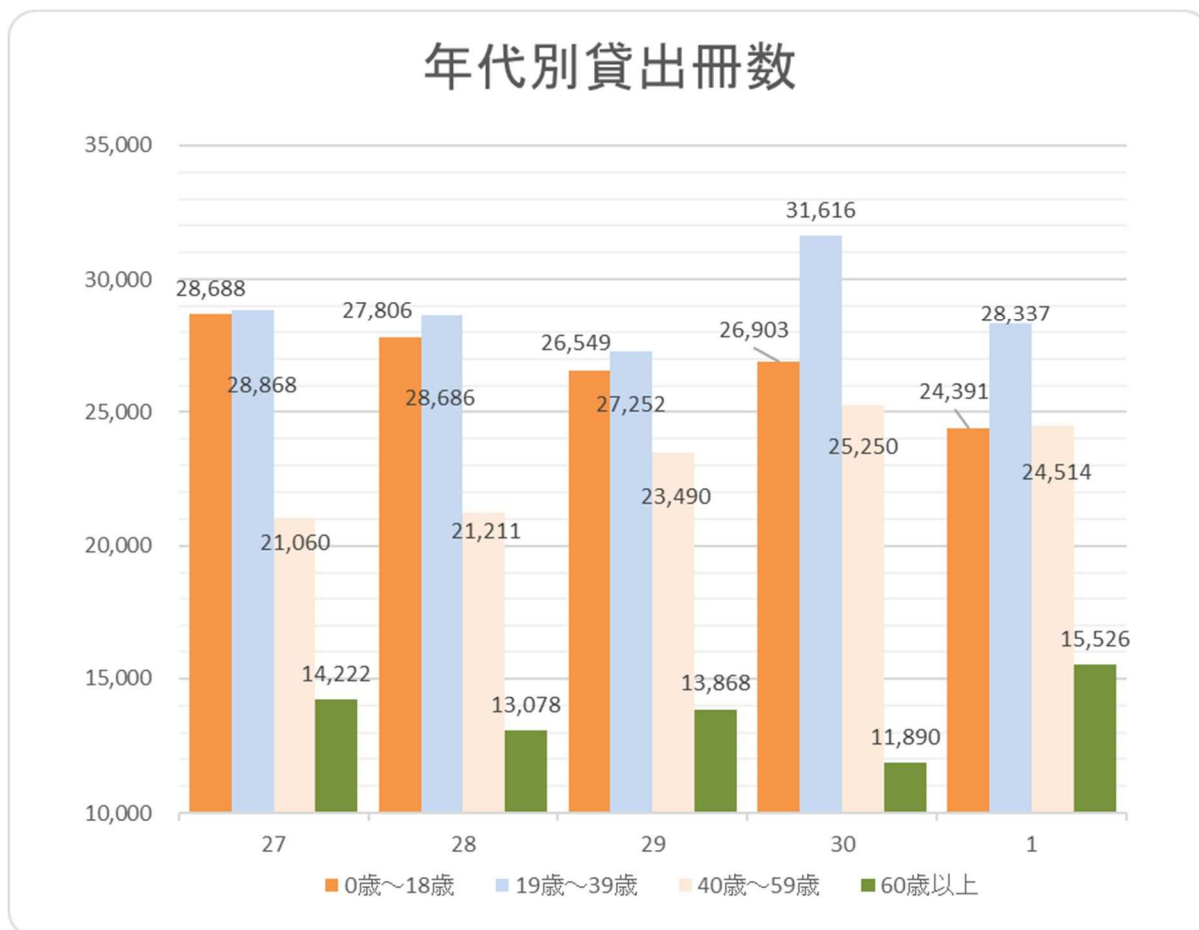
### (1) 登録者数・貸出冊数



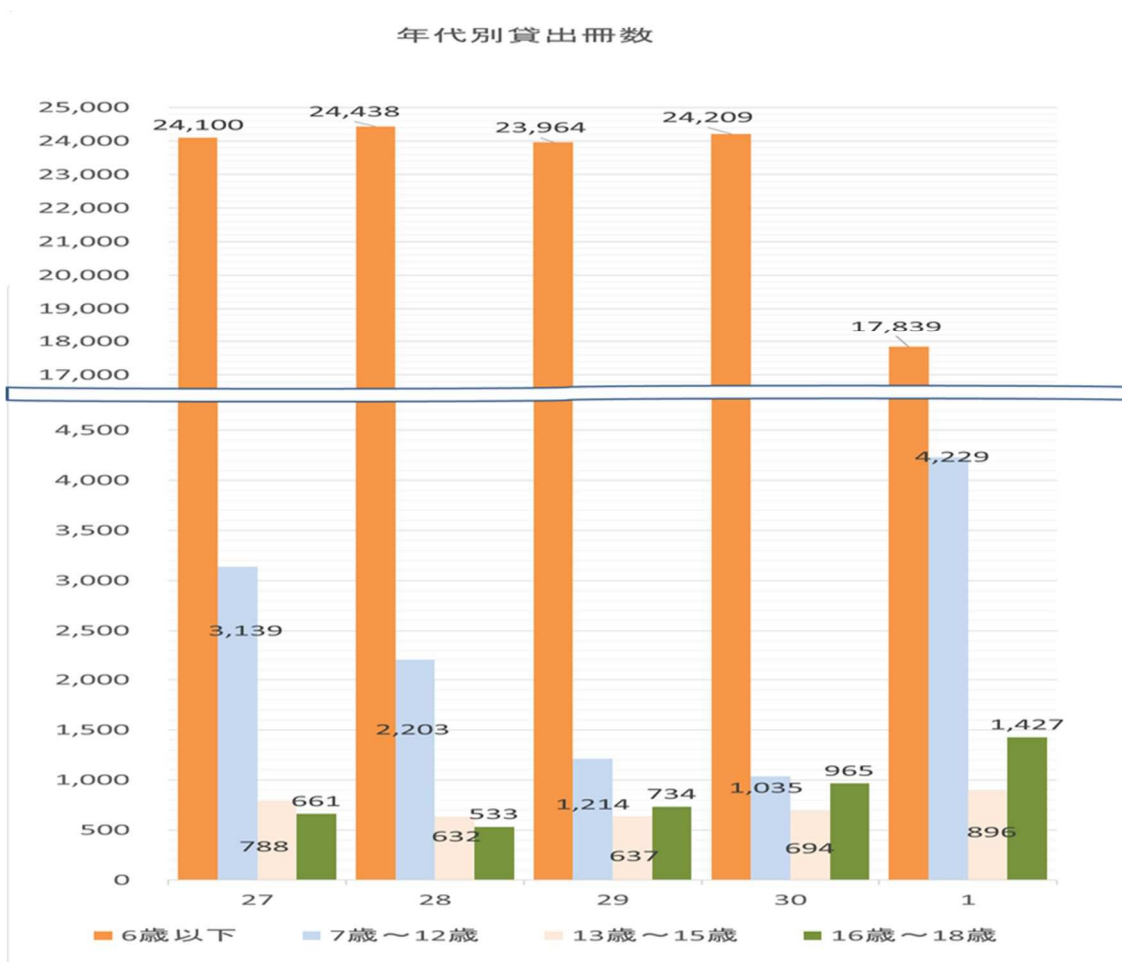
### (2) 年代別登録者数の推移



(3) 年代別貸出冊数の推移



(4) 18歳以下貸出冊数の推移



(5) 18歳以下の図書館利用の現状

- ・6歳以下の登録者数は少ないが、貸出冊数は、多く登録者一人当たり年間で156冊の貸出がある。このことから読書に関心のある家庭では、幼少期から本に触れ合う機会が多くあるが、小学校入学とともに貸出冊数が大幅に減少する。
- ・13歳～15歳中学生の登録者数、貸出冊数は、少なくなっている。
- ・小学校の校外学習で市内図書館の見学、
- ・登録者数についても、19歳以上は年々増加傾向にあるが、18歳以下は減少している。

下呂市子供の読書活動推進計画

令和3年

下呂市市長公室市民活動推進課